



◇ エアコンについて ◇

■エアコンの上手な使用方法

少しずつ暖かい日が増え始めた昨今です。それでも時折、暖房のお世話になる季節でもあります。そこで、改めてエアコンについてのアドバイスです。

1902年にアメリカで電気式のエアコンが開発されてから120年、今や生活に欠かすことができない家電の一つとなりました。

エアコンは、身近な機械であるため、実際にどのように使用するとより効率的か、設置する場所はどこがいいか等、苦慮する場合もあるかと思えます。

そこでまずは使用方法についてです。エアコンは頻繁に電源を切らない方が省エネで使える場合もあります。

私達は、幼い頃から『もったいないから』とエアコンの電源をこまめに切ることを教えられてきました。

しかし、エアコンは稼働時に膨大な電力を消費することから建物によっては、むしろ稼働し続けた方が良い可能性があります。

その『建物によっては』というのは、ある程度の気密や断熱のことを言います。一度温めた、あるいは冷やしたエネルギーは、エアコンの稼働を止めると、そのエネルギーがすべて逃げてしまいます。

エネルギーが逃げ切ってからまたエアコンを稼働させることを繰り返すのは、車で例えるなら、信号で止まり、アクセル全開で発進を繰り返すようなものです。

数時間程度の外出なら、エアコンの稼働を止めない方が、エネルギーコストを抑えることができる場合が多いです。

■連続稼働の意義

「ファースの家」以外でも、気密や断熱の良い建物は多く存在します。また、鉄筋コンクリート造のマンション等にも、高い気密性や断熱性能があります。

我慢をしすぎると、温度差による健康被害を助長させる可能性もあります。我慢せずに省エネ運転ができる使用方法を試してみてください。

エアコンは、家の構造や種類で使用方法を変えることをお勧めいたします。

■稼働音

もう一つ知っていただきたいのは、エアコン稼働音の問題です。特に気を付けたいのは室外機の音です。

上記のようにエアコンを連続運転し続けると、夏も冬も、昼も夜もエアコンを稼働しますので、夏・冬共に室外機から『ブーン』といった稼働音が出ます。

そして、暖房時に発する霜取り（デフロスト）運転時の音です。

エアコンの室外機から『プシューッ』といった音を聞いたことがあると思います。この音の正体は、霜取り運転による音です。

■エアコンは熱交換器

エアコンは、元々「熱交換器」ともいわれています。夏の冷房運転時に室外機付近から熱風が出ているのを感じたことがあるかと思えます。

室外機から熱風が出ている時は、室内機からは冷風が出ています。暖房運転時はその逆で、室外機からは冷風が出ています。

その時、かなり冷たい冷風が室外機から出続けますので、室外機に多くの霜がつき、さらにそのまま稼働し続けると、室外機全体が凍ってしまいます。

これでは暖房運転ができなくなるだけでなく場合によっては、故障の原因にもなります。

そこで室外機の霜がつく頃に、暖房運転を止め、冷房運転に切り替えることで室外機を温めて室外機の霜を溶かす運転を行います。

このことを霜取り運転といいます。

■音の聞き分け

その運転を切り替える時、室外機内部にあるコンプレッサーが暖房から冷房に切り替えるのに出る音が『プシューッ』という音です。

冷暖房時、『ブーン』となり続け、冬場には突然『プシューッ』となるわけですから、設置場所については注意が必要です。

隣地との境界が近い場合は、その隣家の方とトラブルになる場合もあります。

エアコンは、家の性能を加味した設置場所、運転方法にすることが大事ですが、室外機の設置場所にも注意が必要です。

■室外機の設置位置

各エアコンメーカーの仕様書にも記載されていますが、エアコンの設置場所でお勧めなのは東側か南側とのことです。

エアコンというと夏の冷房のイメージが強いですが、近年では暖房で使用する方も多くいます。

そして冬場の暖房使用時には、上記のような問題も同時に増えてきています。エアコンの霜取り運転は、気温が最も低下する明け方に稼働することが多いです。

■暖房負荷が多い

エアコンのエネルギーコスト（負荷）がかかるのは、夏よりも圧倒的に冬の暖房運転です。効率を考える時は冬の暖房に重きを置いて、設置場所を吟味した方が良いと思います。少しでも朝日の恩恵を受ける東面や、日中日の光が当たりやすい南面が良いようです。ただ、隣地との関係や家の形状や間口にもよります。計画的に設置することをお勧めいたします。

（著：東京事務所 藤原 智人）